

公開研究会 大戸川ダムの土砂堆積問題を考える –最上小国川の穴あきダムから学ぶ–
2023年11月19日 9:00-13:00 龍谷大学瀬田学舎1号館619室（オンライン併用）

なぜ今、大戸川堆砂問題なのか？

小国川ダムから学ぶ問題提起

参議院議員・前滋賀県知事
嘉田 由紀子

今日の全体のタイトルは、「大戸川ダムの土砂堆積問題を考える」ということで、大変錚々たるメンバーにお集まりいただいております。ぜひ、エポックメイキングな会合にできたらと思っております。

皆さんご存知のように、流水型ダムは環境に優しいということを国土交通省がずっと宣伝しておりますが、流水型ダムができたあと、河川生態系なり、あるいはまた特に私たちが気にしている砂の問題が本当にどうなるのかということがあります。

この9月12日に有志で、山形県にある最上小国川ダムを視察しました。今日はまず、山形大学の川辺孝幸さんに、地質学者からの視点で「小国川ダムの河川環境に何が起きたか」を発表していただきます。実は、川辺さんは、かつて琵琶湖博物館創設の準備段階にも関わっていただいていた方です。それから、「小国川ダムに潜ってみました」ということで、ア

ユ研究者の岸野底さんに映像による報告をいただきます。

一旦休憩を取りまして、大熊孝さんに「流水型ダムについての覚書」ということで、流水型ダムの整理をしていただきます。その後、今本博健さんに「大戸川ダム計画復活の論拠を突く」という発表をお願いしております。さらに、今日は直接発表ではないですが、当時の淀川水系流域委員会を担当されていた宮本博司さんにも来ていただいています。大戸川ダムに限らず、広く意見交換をしていただけたらと思います。

最後に、総括討論としては、行政的には手続きは進行しているということですが、本当にこのままでいいのかということも、全体テーマにさせていただけたらと思います。それには、学者としての学問的な確認が必要ですし、やはり政治力というの必要ではないかと思っております。